

入院患者の転倒転落発生率

QI 項目の解説

入院中の患者さんの転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。転倒・転落の指標には、「転倒・転落によって患者に傷害が発生した損傷発生率」と患者への傷害事例に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。

本指標では、より低い値が望ましいとされています。

転倒転落発生率の割合

QI 指標の定義・計測方法

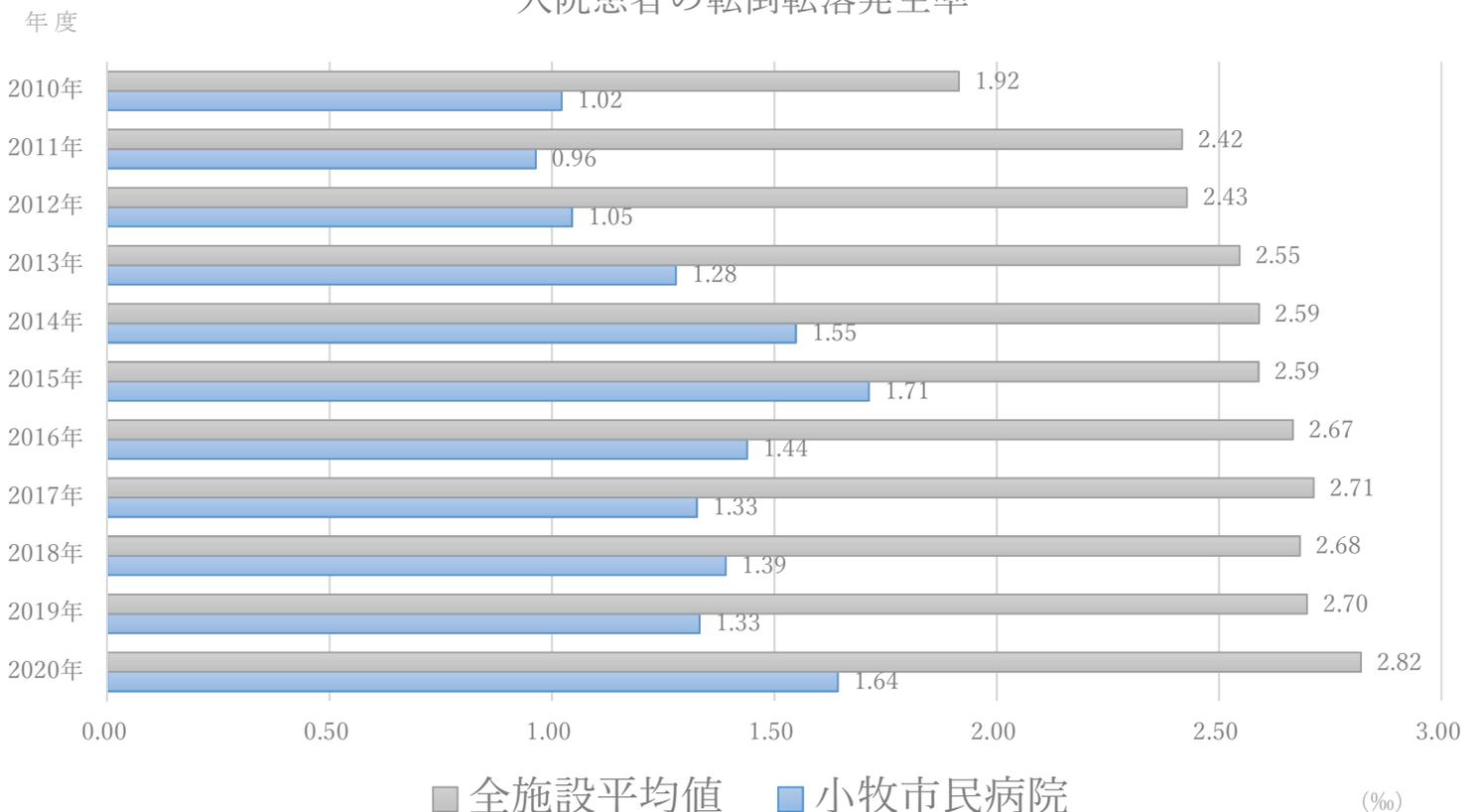
分子：医療の質・安全管理室ヘインシデント・

アクシデントレポートが提出された転倒・転落発生数

×1000【‰】

分母：入院延べ患者数

入院患者の転倒転落発生率



2020 全施設平均値との比較・原因分析

引き続き全国 QI 参加病院平均値を下回っており、2020 年度は 1.18% 低い結果です。

2020 当院データと 2019 当院データとの比較・原因分析

2019 年度と比較し 0.13% 増加したが、全国平均値と比較すると低い水準です。

数値改善に向けた今後の取り組み

リスクマネージャー会議の転倒転落ワーキンググループで、月 1 回の病棟ラウンドと転倒転落の事例分析・対策を「転倒転落 WG レター」に掲載し周知を行い、今後も継続的に取り組みを行います。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

転倒転落ワーキンググループの取り組みが、転倒転落発生率を低値で抑えられていていると考えております。引き続きの活動を行い、事故防止につながるように心がけます。

転倒転落発生率（レベル 2 以上）割合

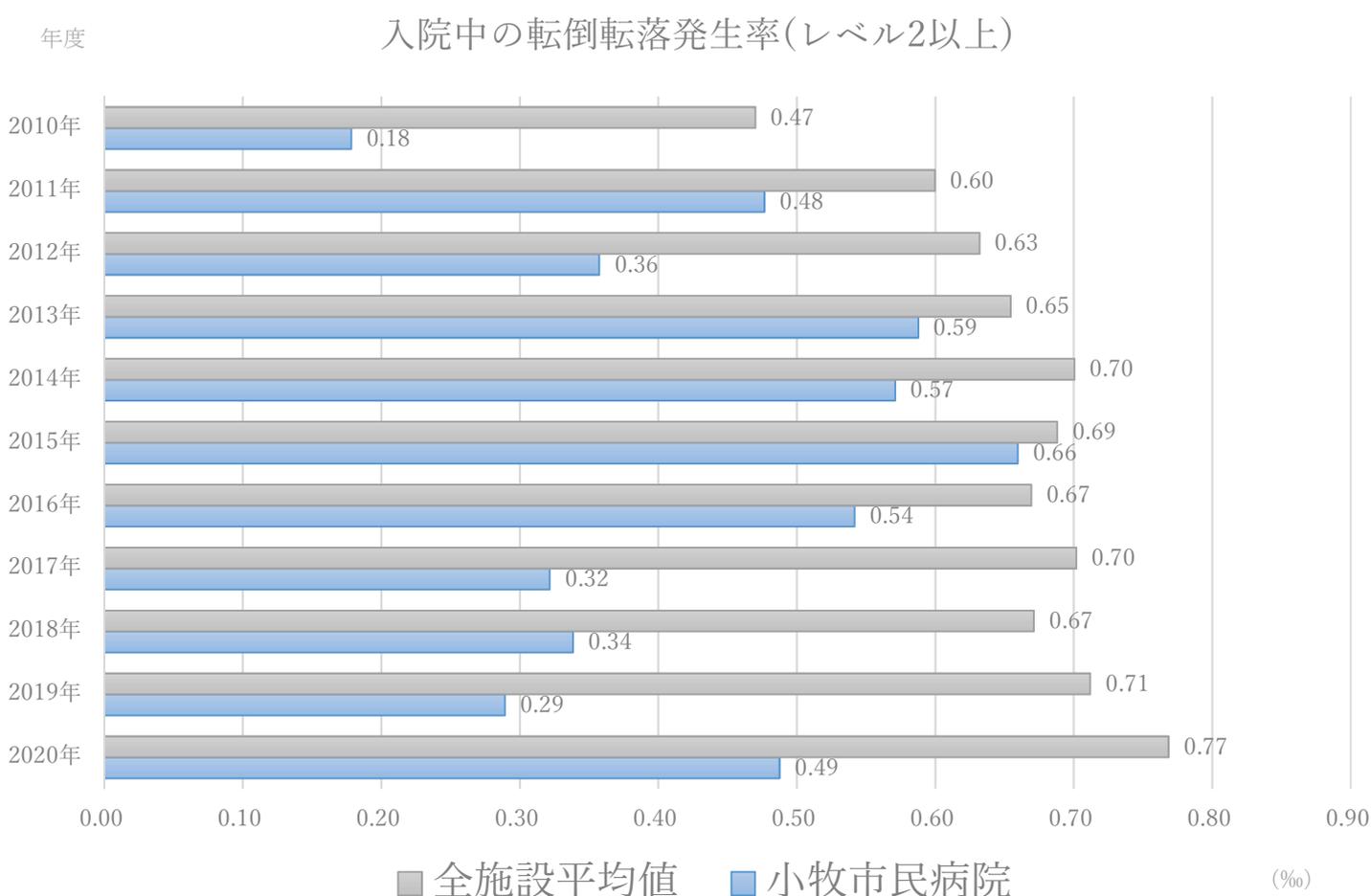
QI 指標の定義・計測方法

分子：医療の質・安全管理室へインシデント・アクシデントレポート
が提出された転倒・転落件数 損傷レベル 2 以上の件数

【‰】

× 1000

分母：入院延べ患者数



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

引き続き全国 QI 参加病院平均値を下回っており、2020 年度は 0.26% 低い結果です。

2020 当院データと 2019 当院データとの比較・原因分析

2019 年度より 2020 年度は 0.2% 増加したが、全国平均値と比較すると低い水準となります。

数値改善に向けた今後の取り組み

リスクマネージャー会議の転倒転落ワーキンググループで毎月 1 回の病棟ラウンドを行っています。そこで事例分析・対策を立て、転倒転落 WG レターに掲載し周知する取り組みを継続しています。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

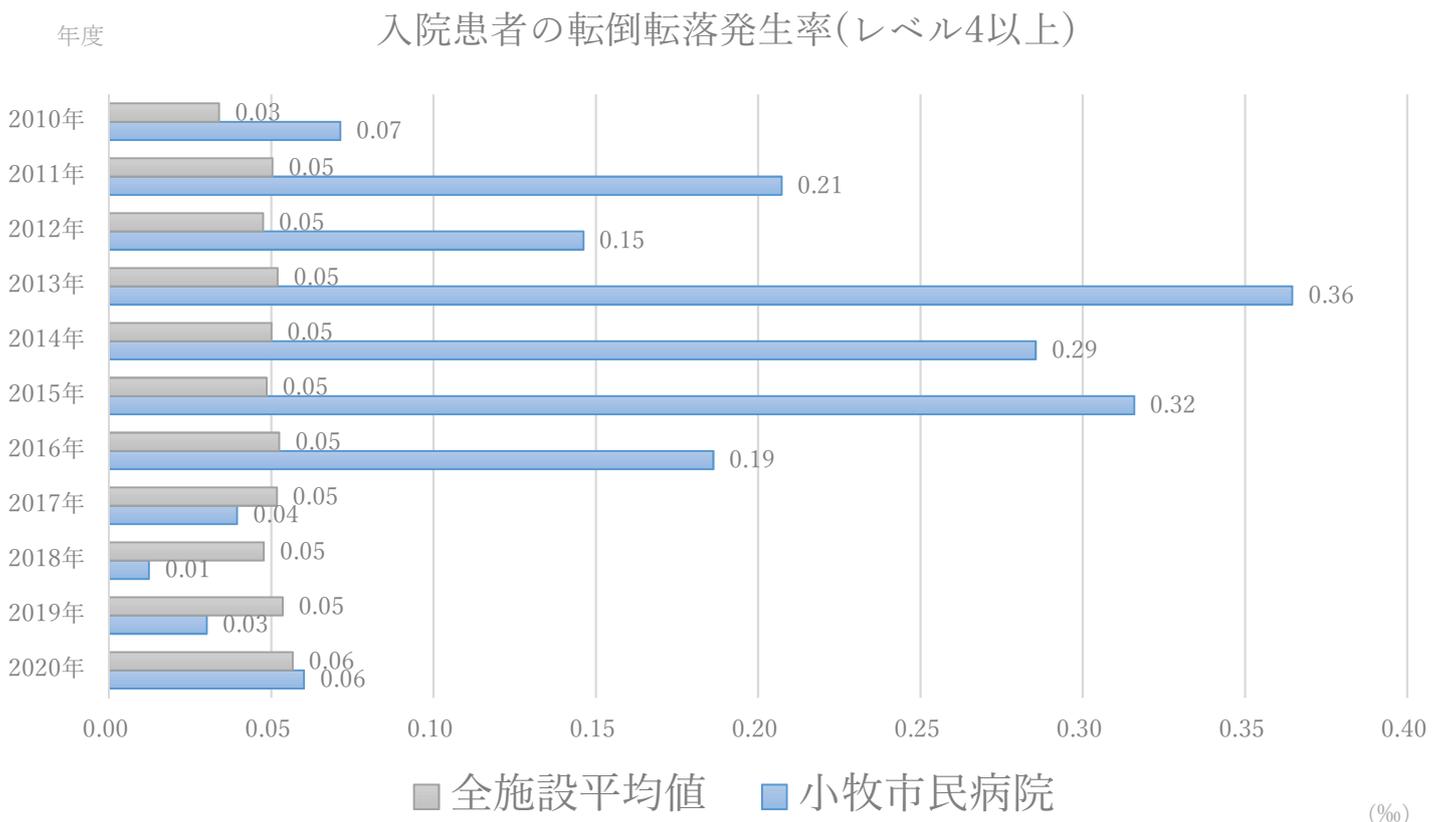
転倒転落ワーキンググループでの取り組みの継続により、転倒転落発生率は、低値に抑えられています。

入院患者の転倒転落発生率（レベル4以上）の割合

分子：医療の質・安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポート
が提出された転倒・転落件数損傷レベル 4 以上の件数

× 1 0 0 0 【%】

分母：入院延べ患者数



2020 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

2020 年度は全国 QI 参加病院平均値 0.06% 同じ値です。

2020 当院データと 2018 当院データとの比較・原因分析

2019 年度と比較し 2020 年度は、0.03% 増加しています。

高齢化が進み、認知機能低下、筋力低下、せん妄治療薬などの薬剤影響下にある患者さんのインシデント報告が増えています。

数値改善に向けた今後の取り組み

転倒をしても重症化しないために、ベッド周りの環境調整、緩衝マットの使用、ベッドの位置（壁付けにする。低床にする）などの対策を日頃から行うよう周知します。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

2020 年度は、損傷レベル 4（骨折・死亡）のインシデント報告の急増に伴い、重症化予防のため転倒転落リスクの高い患者さんにおいては、緩衝マットを使用することを推奨するようにしました。また、緩衝マットが不足していたため増量し、重症化を防止する対応ができるようになりました。